

包装紙革命



ゴミ減量化への取り組み

コンセプト

私達の町では（大野城市・太宰府市・福岡市）ゴミ焼却場や廃棄物処理場はもうすぐ機能不可能になり、次の施設を探すのに苦勞していたり、莫大な経費が使用されたりして話題になっています。

そこで少し関心を持ち初めました。すると全国でもこの様な問題が発生していますし、長い間の社会問題で少しも解決しないでますます深刻になっていることに気が付きました。21世紀に生きていく私達は、ますます深刻になっていく他の社会問題とあわせてさけては通れない問題だと思いました。

そこで、私たちにできるものから始めようとゴミ減量化のひとつの取り組みとして、包装紙革命を行いました。



包装紙の今と昔



すき焼き



今

昔



ファーストフード



今

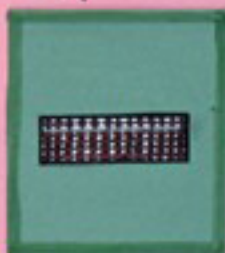
昔



電気製品

今

昔



- ・今は昔に比べて、過剰な包装紙が多い。
- ・今の包装紙は、ビニール製のものが多く、有害な物質がでたりする

これは、改善すべき点であるとおもいます。

そこで、私達の生活の中で一番身近に出ているスーパーの袋について調べてみました。



大手スーパーの S 社に聞きました！

(福岡県内の全店舗)

- Q 1日に約何人の人が来ますか？
A 10万人です。
Q 一日にどのくらいの袋を配っていますか？
A 12万枚です。



一日に

12万枚 出ることになります。

それを面積として計算すると

一日に636km²となります。



福岡

2ヶ月で私達の住む福岡県をすべて埋め尽くします。

2年後には日本をすべて埋め尽くします。



ごみ焼却場が汚染源 **ダイオキシン** 汚染の脅威

このスーパーの袋を燃やすと、史上最強の毒性をもったダイオキシンが発生します。ダイオキシンは人体には影響がないレベルであると報告されているけれど、私達出したビニール袋から排出されたダイオキシンは、食物連鎖を経て、いつかは私達の体内へと入り込んで来るのです。ダイオキシンの致死量は体重1Kgあたり1万分の1以下と言われていますが、その量を超えるとベトナム戦争で起こったかれ葉剤の惨劇がくり返されるのです。

結びひも

- ・本来のふろしきよりも結びやすく、しっかりと結べる

なまもの専用防温ポケット

- ・集中的に温度を保つ
- ・他の食品と重ならない
- ・のび縮みするのでたくさんはいる

紙ボタン

- ・原料は紙を圧縮したものを採用

手提げ

- ・もちやすい手提げつき
- ・丈夫なため、重い荷物でも安心

防温シート

- ・食品が、腐れないように温度を保つ

展開図

布

- ・自然にやさしい天然繊維を採用
- ・結んでも土にもどる
- ・堅い素材なので、丈夫
- ・防水加工をしてあるので、水に強い

組立図



コンパクトにためて荷物にならないデザインがおしゃれ

まとめ

ゴミ減量化への取り組みのひとつとして包装紙減量化革命を目指してきました。そこで、私達が発明したふくろしきをみんなが使うことが出来たら、現在、包装紙のために切られている一年間に九州ひとつ分の森林を使用せずに済み、自然が守れるのではないかと思います。